

平成 23 年度事業報告

(平成 23 年 10 月 4 日～平成 24 年 3 月 31 日)

事業

I 世界に開かれた県民意識の向上の推進

【目標】

県民が、世界の人々と対等で良好な関係が築けるよう意識の向上を推進する。特に、国際社会に貢献し世界をリードする幅広い視野や国際感覚を持つ次世代を育成するため、様々な事業を展開するとともに、行政や民間団体等と連携・協力していく。

【目標指数】

項目	平成 23 年度 (年間)	平成 23 年度 実績(達成率)
当協会が企画する 国際理解講座数	33	29 (88%)

【事業実績】

1 多様な交流や国際理解の推進

(1) ふくしま友好外交官

下記の通り県民との友好親善を深めた。

【国際交流フェスティバルへの参加】

主催：会津若松市国際交流協会

日時：平成 23 年 10 月 29 日（土）10:00～15:00

会場：会津若松市鶴ヶ城体育館

来場者：一般 約 2,700 名

内容：当協会ブースにて、ふくしま友好外交官 4 名がクイズなどを通じて来場者との交流を深めるとともに、当協会の事業案内を行った。

【料理交流会】

日時：平成 24 年 1 月 15 日(土) 10:00～14:00

会場：福島市アクティブシニアセンターA0Z 調理実習室

参加者：一般 14 名

内容：友好外交官自らが企画した料理交流会において、友好外交官 8 名が参加

者と一緒にチヂミや水餃子などを料理したり、ゲーム等を通じて交流を深めた。

【活動報告会】

日時：平成24年2月11日（土）13:00～16:30

会場：当協会

参加者：37名（報告者、関係者、その他一般）

- 内容：
- ふくしま友好外交官活動報告（6名）
 - 国際交流・協力団体東日本大震災に関する活動助成事業報告（8団体）
 - ふくしまユースグローバルカレッジ2011活動報告（5名）
 - 次世代の海外研修への助成活動報告（1名）
 - 参加者交流会

（2）国際理解出張講座

下記のとおり当協会役職員が講師となり、様々なテーマの講座を実施した。

- 実施回数 18回（内訳 講座A(0)、B(0)、C(2)、D(6)、E(5)、F(5)）

（年間 計29回 前年度比83%）

- 参加者数 878名

（年間 計1,593人 前年度比59%）

- 内訳

月 日	主 催	対 象	人数	講座名	講師名
10月12日	福島市飯坂学習センター	市民	76	E「世界の中のふくしま」	専務理事 渡辺幸吉
10月20日	須賀川市立仁井田小学校	小学生	70	D「世界が100人の村だったら」	理事 布田節子
10月26日	福島市平野ふれあい館	市民	36	E「世界の中のふくしま」	専務理事 渡辺幸吉
10月27日	本宮市立白岩小学校	小学生	31	C「ちがいのちがいの」	理事 布田節子
11月8日	本宮市立本宮小学校	小学生	64	D「世界が100人の村だったら」	理事 布田節子
11月25日	福島ユネスコ協会	会員	50	F「国際人って？」	国際交流員 ケビンシャ
11月26日	NPO法人福島早期バイリンガル教育普及協会	会員	20	F「国際人って？」	国際交流員 ケビンシャ
12月4日	飯野町国際交流ネットワーク	会員	20	D「世界が100人の村だったら」	理事 布田節子

12月18日	福島市アクティ ブシニアセンタ ー	市民	12	F「国際人って？」	国際交流員 ケビン シャ
12月20日	いわき市草野公 民館	市民	50	E「世界の中のふく しま」	専務理事 渡辺幸吉
1月12日	福島市立野田小 学校	小学生	121	D「世界が100人の 村だったら」	理事 布田節子
1月13日	伊達市立上保原 小学校	小学生	49	F「国際人って？」	国際交流員 ケビン シャ
1月17日	伊達市立上保原 小学校	小学生	91	D「世界が100人の 村だったら」	理事 布田節子
1月19日	本宮市立白沢中 学校	中学生	98	C「ちがいのちが い」	理事 布田節子
2月19日	川俣町本町地区 自治会	市民	30	E「世界の中のふく しま」	専務理事 渡辺幸吉
2月25日	県中地区特別養 護老人ホーム	職員	20	E「世界の中のふく しま」	専務理事 渡辺幸吉
2月25日	県中地区特別養 護老人ホーム	職員	20	D「世界が100人の 村だったら」	理事 布田節子
3月10日	福島市アクティ ブシニアセンタ ー	市民	20	F「国際人って？」	国際交流員 ケビン シャ

(3) ふくしまグローバルセミナー2011

主催：福島県国際理解教育ネットワーク（福島県、福島県教育委員会、JICA 二本松、当協会）

日時：平成 23 年 12 月 10 日（土）10:00～15:30

会場：JICA 二本松

参加者：高校生以上の県民等 99 名

内容：○基調講演「震災を通じて見えてきたもの」

講師：吉田恵美子さん（ザ・ピープル代表）

○昼食交流会、団体活動紹介ブース

○「南アメリカからこんにちは」ほか 7 つの講座

2 グローバル社会で活躍する次世代の人材育成

(1) ふくしまユースグローバルカレッジ 2011

概ね 30 歳以下の県内大学生及び社会人等若い世代を対象にした連続 5 回の講座

の第4回、第5回を実施した。なお、最終回には各参加者が今後取り組んでみたいと考えたことのアクションプランを作成した。

また、ふくしま友好外交官の活動報告会に併せて、受講生が成果発表を行った。

回	月日	会場	参加者数	講師	内容
4	11月5日 (土)9:30 ～15:30	県国際交流協会	7	布田節子 (ふくしま青年海外協力隊の会) 日下部喜美子 (グローバル教育研究会ふくしま) 坂中澄子 (郡山市立行健小学校)	世界とのつながり～食物の流通から～/異文化とどうつきあうか
5	12月10日 (土)10:00 ～11日12時	JICA 二本松	5	日下部喜美子 (グローバル教育研究会ふくしま) 坂中澄子 (郡山市立行健小学校)	ふくしまグローバルセミナーへの参加/アクションプランの作成他

(2) 次世代の海外研修への助成事業

県内在住の高卒以上40歳以下の若い世代がNGO等または個人で企画する海外研修事業に参加する際、その研修経費の一部を助成する事業を実施したところ、3件の応募があり下記の通り1件に助成した。

なお、ふくしま友好外交官活動報告会に併せて、研修予定を発表した。

	氏名	研修内容	助成金
1	佐藤潤	期間：平成24年3月7日～21日 研修国：ポリビア、ペルー 内容：山岳地域における市民生活の視察と植民地支配が与えた影響	5万円

II 外国出身県民とともに創る活力ある地域づくりの推進

【目標】

外国出身県民が、地域住民として等しく行政サービスが受けられ、地域づくりのパートナーとして活躍できるよう環境の整備を推進する。

【目標指数】

項目	平成 23 年度 (年間)	平成 23 年度 実績(達成率)
外国出身の多文化共生 サポーター活動人数	44	51(116%)

【事業実績】

1 安全・安心な地域づくりの推進

(1) 多言語行政サービス提供事業（県受託事業）

多言語コーディネーター1名と通訳員3名を配置し、中国語と英語は随時、韓国語、タガログ語、ポルトガル語については、毎週水曜日 13:00～17:00（第4・第5水曜日は予約制）に、行政サービス受給や在留資格など、外国出身県民に関わる各種問い合わせに対応した。なお、さまざまな機会を捉えて当事業の広報を行った。

○ 相談件数 199件(内トリオフォン利用件数 5件)

(年間 373件(前年度比70%)、内トリオフォン利用件数11件(前年度比65%))

○ 主な相談内容と出身国

内容 出身国	生活 全般	通訳 翻訳	家族	医療	在留 資格	教育	その 他	合計
中国	45	3	17	14	12	12	21	124
日本	6	19	1		1	2	27	56
フィリ ピン	2		3					5
アメリ カ	3							3
その他	5	1	1	1	1		2	11
合計	61	23	22	15	14	14	50	199

○ 広報活動

主催者：白河市国際交流協会

日時：平成24年1月11日(水)、3月15日(木) 両日とも10:00～11:30

会場：白河市産業プラザ人材育成センター

参加者：市内企業の中国人研修生8名程度×2回

(2) 多言語による相談

【巡回相談】

主催：郡山市国際交流協会

日時：平成24年3月15日（木） 13:00～16:00

会場：郡山市総合福祉センター

相談者：中国出身者3名

相談内容：原発事故賠償、国民年金等

【外国語による地震情報センター】

震災後、福島県国際課と協力して立ち上げた「外国語による地震情報センター」において、継続して福島県の「東日本大震災関連情報」の一部を英語と中国語に翻訳し、県HPにアップし情報提供するとともに、通常の「多言語による相談」業務内で電話やメール等での相談に対応した。

- 相談件数 37件（年間238件）
- 相談言語 日本語（34）、中国語（3）
- 主な相談内容と相談者の出身国

内容 出身国	避難	放射線	在留資格	物資支援	ボランティア支援	義援金・寄付金	福島県の状況	取材相談	その他	合計
中国							1	2		3
日本		1		4	2	1	18	1	1	31
フィリピン									2	2
韓国									1	1
合計		1		4	2	1	19	3	4	37

（3）帰国・外国出身児童生徒に対する支援

【学校へのサポーターの長期派遣】

来日して間もない帰国・外国出身児童生徒に対して、母語のわかる、または日本語指導ができるサポーターを紹介または派遣して、学校生活への早期適応を図った。

- 件数 1件（年間7件 前年度比 100%）
- 人数 1名（年間7名 前年度比 88%）
- 内訳

No	期間(のべ時間)	場所	内容	依頼者	人数
1	11月11日～1月27日（2×24回=48時間）	福島市立吾妻中学校	中国出身児童1名への日本語指導及び教科通訳	福島市国際交流協会	1

【外国籍（帰国）生徒高校受験ガイダンス会】

日時：平成23年11月26日（土） 10:00～12:00

会場：当協会

参加者：中国出身生徒4名とその保護者

- 内容：○高校受験について
○作文の書き方と留意点
○面接の受け方と模擬面接
○質疑応答

【外国出身子どもへの支援活動団体への支援】

ふくしま子どもの日本語ネットワーク主催の「外国にルーツを持つ子供たちのための土曜広場」の活動において、会場の便宜供与等のサポートを行った。

(4)多言語による情報提供

- 発行月：平成23年12月、平成24年3月
○言語：福島生活（中国語版）、Fukushima Life(英語版)
○仕様：A4版2ページ カラー刷り 各1,000部
○内容：イベントレポート、生活情報、外国出身者からの投稿記事など
○配布先：県内の公共施設、県内大学留学生担当課、日本語教室、仙台出入国管理局郡山出張所、外国出身コミュニティ他

(5)放射線に関わる健康管理セミナー（通訳付き）（兼ふくしま多文化共生サポータースキルアップ研修会）（(財)自治体国際化協会助成事業）

【セミナー】

県内各地に点住する外国出身県民が参加しやすい環境を整え、放射線の健康への影響に対する不安解消の一助とするため、通訳を入れた放射線に関わる健康セミナーを県内4会場で実施した。

- 参加者数：計123名（うち外国出身県民26名）
○講師：高村昇さん（福島放射線健康リスク管理アドバイザー 長崎大学教授）
○逐次通訳者：マクマイケルビリィさん（英語、福島大学職員）
呂学如さん（中国語、福島学院大学准教授）

○日時・会場等

月日	会場名	参加者数 (うち外国 出身者数)	言語	共催団体
12月3日(土) 13:00～15:30	郡山市総合福祉センター(視聴覚室)	16(3)	中国語	郡山市、郡山市 国際交流協会
12月4日(日) 13:00～15:30	会津若松市生涯学習総合センター『會津稽古堂』(研修室3)	13(5)	中国語	会津若松市国際 交流協会

12月17日(土) 13:00~15:30	いわき市社会福祉センター(大会議室)	42(1)	英語	いわき市、(財)いわき市国際交流協会
12月18日(日) 13:00~15:30	福島テルサ(あぶくま)	52(17)	英語	福島市、福島市国際交流協会

【ふくしま多文化共生サポータースキルアップ研修会】

- 内容：上記セミナーにおいて逐次通訳の実際を観察したのち、通訳者が逐次通訳の心構えと現場での様々な状況における対処法などについて講話をした。
- 参加者数：郡山会場(4名)、会津若松会場(2名)、いわき会場(1名)、福島会場(10名)

【セミナー講演録翻訳版の作成】

- 発行月：平成24年2月
- 言語と発行部数：中国語(900部)、英語(500部)、韓国語(300部)、やさしい日本語(300部)
- 仕様：A4版 12~16ページ
- 内容：講話内容と、4会場での質疑応答の概要
- 配布先：県内大学留学生担当課、日本語教室、出入国管理局郡山出張所、外国出身コミュニティ他
- その他：上記4言語に日本語を加えた5言語のセミナー講演録を当協会HPに掲載した。

2 活力ある地域づくりに参加できる環境整備の推進

(1) 母語(外国語)を活用した日本語指導法講座(文化庁受託事業)

母語(外国語)を活用した効果的な日本語の教え方に関する連続5回の講座のうち、残りの4回の講座を実施した。なお、会場はすべて当協会研修室。

回	日時	人数(うち外国出身者)	講師	内容
2	10月15日(土) 10時~16時	23(16)	福島大学人間発達学類 准教授 中川祐治さん	日本語ってどんな言語なの？

3	10月29日(土) 10時～16時	19(12)	外国人の子ども・サポ ートの会 代表 田所希衣子さん	どうする？外国出身の子ど ものサポート
4	11月19日(土) 10時～16時	22(14)	福島大学人間発達学類 准教授 中川祐治さん	母語（外国語）を使った日 本語指導って、何を使って、 どうやって教えるの？
5	12月17日(土) 10時～16時	23(17)	宮城教育大学附属国際 理解教育研究センター 教授 市瀬智紀さん	さあ、教えてみよう！～模 擬授業に挑戦

(2) ふくしま多文化共生サポーターの活動促進

さまざまな機会を捉えてサポーター活動事業について広報するとともに、依頼内容に応じて適切なサポーターを紹介するなど、その活動のコーディネートを行った。また、当協会主催事業でも積極的にサポーター活動を取り入れた。なお、サポーター制度の全面的な改正を行い、平成24年度からのスタートに備えた。

- 総件数 21件（年間41件 前年度比93%）
- 総人数 47名（年間155名 前年度比119%）

【外国出身児童生徒の支援に対する派遣】（前述）

- 件数 1件（年間7件 前年度比100%）
- 人数 1名（年間7名 前年度比88%）

【公的団体等の依頼に対する派遣】

- 件数 16件（年間26件 前年度比104%）
- 人数 18名（年間47名 前年度比124%）
- 内訳

No	月日	場所	内容	依頼者	人数
1	10月20日	小野町	中学生海外派遣事業 報告書翻訳（英語）	小野町公民館	1
2	10月28日	渡利小学校	国際理解講座講師	渡利小学校	1
3	11月6日	福島県国 体体育館	ロシア選手の通訳（ロ シア語）	国際空手大会 実行委員会	1
4	11月9日	清水学習 センター	国際理解講座講師	清水学習セン ター	1
5	11月9日	渡利小学 校	国際理解講座講師	渡利小学校	1
6	11月16日	清水学習 センター	国際理解講座講師	清水学習セン ター	1

7	11月23日	猪苗代町	猪苗代町国際交流協会総会における講演	猪苗代町国際交流協会	1
8	1月12日	大波小学校	国際理解講座講師	大波小学校	1
9	1月15日	福島警察署	当番弁護士接見時通訳(中国語)	福島県弁護士会	1
10	1月24日	郡山家裁	女性入所者の離婚調停時通訳(中国語)	福島県女性のための相談センター	1
11	2月13日	会津若松警察署	当番弁護士接見時通訳(中国語)	福島県弁護士会	1
12	3月23日～25日(3日間)	福島市音楽堂	声楽アンサンブルコンテスト全国大会通訳(英語)	福島県文化振興財団	1
13	3月5日、27日	郡山免許センター	講習時通訳(英語)	二本松市教育委員会	2
14	2月21日	会津方面	観光通訳(韓国語)	JETRO福島	1
15	3月25～29日(4日間)	郡山女子大他	声楽アンサンブルコンテスト参加団体通訳アテンド(英語)	福島県文化振興事業団	2
16	3月29日	福島市内の精神科クリニック	女性入所者受診時通訳(中国語)	福島県女性のための相談センター	1

【当協会主催事業での活動】

- 件数 4件(年間8件 前年度比73%)
- 人数 28名(年間101名 前年度比138%)
- 内訳

No	期間	場所	内容	人数
1	11月26日	当協会	外国籍(帰国子女)高校進学ガイダンス会での講師等	8
2	12月10日	JICA 二本松訓練所	ふくしまグローバルセミナーの国際理解講座の講師	1
3	12月3日～18日	県内4会場	放射線と私たちの健康セミナーでの通訳・翻訳(英語、中国語)	4
4	10月～3月	県内学校・公民館等	国際理解出張講座の講師	15

Ⅲ 多様な関係団体と連携した国際交流活動の推進

【目標】

県、市町村や市町村国際交流協会、日本語教室、国際交流・協力団体など多様な国際交流活動の関係団体との調整・連携を一層強化し、多様な国際交流活動が県内各地で展開できるよう環境を整備していく。

【目標指数】

項目	平成 23 年度 (年間)	平成 23 年度 実績(達成率)
外国出身県民にかかわる ものも含めた相談件数	730	910(125%)
トップページアクセス 件数	91,000	79,144(87%)

【事業実績】

1 人材育成やネットワーク化の推進

(1) 日本語教室の活動支援

【日本語ボランティア研修会】

日時：平成 23 年 11 月 3 日(祝)10:00～16:00

会場：当協会

講師：松尾恭子さん(公益社団法人国際日本語普及協会所属日本語講師)

参加者：23名

テーマ：「楽しい」「元気が出る」「ほっとする」そんな心のつながりを感じる活動のヒント～日本語教室からふくしまを元気にしよう～

【日本語教室ネットワーク会議】

日時：平成 24 年 3 月 13 日(火)13:00～15:45

会場：当協会

参加者：30名(県内日本語教室17教室26名、その他関係者4名)

内容：○講話「新たな在留管理制度について」

講師：青木正憲さん(仙台入国管理局郡山出張所長)

○情報・意見交換

○当協会及び福島大学からのお知らせ

【日本語教室にかかわる相談】

○ 相談件数： 41 件(年間 103 件)

○ 内訳

内容 相談者	教授法	教材 教具	教室 運営	ボラン ティア 育成	日本 語教 室	資格 試験	その 他	合計
日本語教室 運営者		1	1	3			4	9
日本語 ボランティア	1	6	3	2	2		7	21
教育関係者	1			3	2		2	8
各種団体							2	2
県外				1				1
合計	2	7	4	9	4		15	41

【日本語教室メーリングリスト等での情報発信】

○ 回数： 22 件(年間 44 件)

○ 内容： 新刊図書案内、イベント情報等

【日本語教室未開設地域における新設に向けたサポート】

外国人登録数が住民比で 1%を超える白河市や伊達市に対し、日本語教室開設に向けた情報やノウハウを提供した。

(2) 市町村及び市町村国際交流協会との連携強化

【国際交流フェスティバルへの出展】(再掲)

(3) 同国出身者ネットワークのサポート

下記の同国出身コミュニティ等について、設立や関係団体とのネットワーク、様々な活動に関してのサポートを行った。また、それぞれの団体の活動について、当協会広報紙等で紹介したり、また新聞社や関係団体等の記事として紹介したりすることで、その活動を広く県民に広報した。なお、※は震災後に設立した団体

○ Fu-jet (JET プログラムで来日している英語指導助手や国際交流員等)

○ HAWAK KAMAY FUKUSHIMA (フィリピン出身者等) ※

○ 福島華僑華人総会 (中国出身者等) ※

○ つばさ (中国出身母親とその子等) ※

2 相談・情報提供

(1) 国際交流等に関する幅広い相談への対応

○ 相談件数：124 件(年間 196 件)

○ 内訳

内容 相談者	人の 紹介	国際 理解	団体 運営	語学 留学	イベ ント 情報	国際 協力	国際化 の現状	協会 業務	その 他	計
行政関係	7		4				2	1		14
市町村国際 交流協会	4		3							7
国際交流・協 力団体	1	8	19				1			29
教育関係者	6	6	4		1		2			19
一般	6	3	6	4	5	3		3	4	34
報道関係者	1									1
各種団体等	4		3		1		1	1		10
県外	1	4	3				1	1		10
計	30	21	42	4	7	3	7	6	4	124

(2) 広報紙「G y r o(ジャイロ)」の発行

○発行月：平成23年12月、平成24年3月の年2回

○仕様：A4版8ページ、表紙・裏表紙カラー刷り中面2色 3,000部

○内容：人物クローズUP、地域で活動する団体の紹介、JETの広場、当協会の主催事業案内と報告など

○配布先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、民間団体他

(3) 多言語による生活情報紙（中国語・英語）の発行（再掲）

(4) 国際デジタル情報提供促進事業（県受託事業）

情報担当嘱託員を1名配置し、中国語版・英語版ホームページにおける外国出身県民に対する防災情報ページの更新や県内日本語教室情報の多言語化など、迅速で効果的な情報提供を行った。

(5) 民間国際交流団体ダイレクトリーの整備

県内の民間国際交流・協力団体の活動状況を、当協会ホームページ上で随時更新した。

(6) 当協会ホームページ及びメールマガジンによる情報提供

【ホームページの更新】

ホームページの内容の更新やリンク切れの確認など逐次見直しを行うとともに、ホームページでの最新情報の更新を即時に行った。

○ トップページアクセス件数 35,827件 (79,144件 前年度比 87%)

【メールマガジン】

国際交流に関する身近なイベント情報などをメールマガジンで発信した。

○ 登録者数 : 162名 (前年度比 114%)

○ 発信回数 : 12回 (年間 22回)

3 調査研究・提言

(1) 東日本大震災後の当協会や関係団体、及び外国出身県民等の状況調査

震災後の状況等をまとめるとともに、その内容について来年度実施予定の外国出身コミュニティサポート事業の参考とした。

4 協働事業の推進

(1) 民間国際交流・協力団体 東日本大震災に関する活動助成事業

福島県内に拠点を有し活動する非営利団体 6 団体の 7 事業に対し、下記のとおり助成金を交付し、福島復興の一助とした。

なお、ふくしま友好外交官活動報告会に併せて、活動報告を行った。

NO	申請団体名	活動名	交付額
1	会津若松市国際交流協会	2011 国際交流フェスティバル	10 万円
2	南相馬市国際交流協会	被災地南相馬市多言語くらし情報	10 万円
3	ふくしま子どもの日本語ネットワーク	「移動する子どもたち」の心のケアを考えるシンポジウム	8 万円
4	にほんまつ地球市民の会	地球市民の集い『地球のステージ(震災編)』	10 万円
5	HAWAK KAMAY FUKUSHIMA	仮設住宅でのフィリピンカフェの開催	5 万円

6	HAWAK KAMAY FUKUSHIMA	タガログ語のニュースレター発行	2万円
7	NPO 法人ふくかんねっと	福島県復興ボランティア受け入れ事業	5万円

IV 世界に向けた福島の発信

【目標】

福島県の復興の様子をありのままに発信する。

【事業実績】

1 情報の発信

- (1) 多言語による東日本大震災震災復興版ジャイロ『がんばろう福島』の発行（(財)自治体国際化協会助成事業）

福島県に暮らす外国出身者や福島県にゆかりのある県外国外在住外国人に向けて、不必要な不安を取り除き、また、国内、海外からの福島に対する風評被害を抑えるため、国内外に向けて福島の復興が進む現状を多言語で発信した。

【ホームページ上での掲載】

- 発行期間 : 10月～3月の月1回
- 言語 : 日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、タガログ語、ポルトガル語の7か国語
- 仕様 : A4版1～2ページ
- 内容 : 福島の風景写真、福島に暮らす外国出身者からのコメント他
- 周知方法 : 当協会メールマガジンでの発行周知、他県国際交流協会や自治体国際化協会海外事務所、福島県上海事務所のHPでのリンク

【紙媒体】

- 発行月 : 平成23年11月
- 発行部数 : 日本語2,000部 英語1,000部 中国語1,000部
- 仕様 : A4版2ページ 両面カラー刷り
- 内容 : 福島の風景写真、福島に暮らす外国出身者からのコメント、福島県の被災状況他
- 配布先 : 賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、民間団体他

V その他

1 関係機関への講師派遣等

(1) 職員の派遣協力

当協会職員を、関係機関団体の各種事業におけるパネラー等として派遣協力した。

月日	主催者	事業名	役職員名
平成 23 年 10 月 22 日	郡山ザベリオ学園中学校	インターナショナルデイ	国際交流員 ケビンシヤ
平成 23 年 11 月 22 日	(財)自治体国際化協会	東日本大震災外国人住民支援活動シンポジウム	専務理事 渡辺幸吉
平成 23 年 11 月 26 日	東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター	多文化社会実践研究・全国フォーラム	主任主査 幕田順子
平成 23 年 12 月 10 日	福島県国際理解教育ネットワーク	ふくしまグローバルセミナー2011	専務理事 渡辺幸吉 国際交流員 ケビンシヤ
平成 24 年 3 月 3 日	川崎市国際交流協会	多文化シンポジウム	専務理事 渡辺幸吉

(2) 東日本大震災・原発事故被災地視察の支援

平成 23 年 11 月 23 日、(財)自治体国際化協会主催の被災地視察を全面的に支援し、全国から参加した自治体及び地域国際化協会職員 44 名が、飯館村、南相馬市、相馬市の被災と復興状況を視察するとともに、相馬市の外国人支援活動者と懇談した。

2 関係機関誌等への寄稿

関係機関団体の機関誌等に原稿寄稿の協力をした。

機関誌名	発行者	記事名	役職員名
自治体国際化フォーラム 8月号	(財)自治体国際化協会	外国人被災者を支援する地域国際化協会の取り組みについて	専務理事 渡辺幸吉

自治体国際化フォーラム 11月号	(財)自治体国際化協会	国際理解教育から地域を変える	主任主査 幕田順子
------------------	-------------	----------------	--------------

経営

【目標指数】

項目	平成 23 年度 (年間)	平成 23 年度 実績(達成率)
賛助会費 (万円)	134	110(82%)
事務費(物件費)※ (万円)	678	561(83%)

※年々事務費の減少を目標としている。

1 財源の確保と経費節減の推進

【計画】

- (1) 財源の確保
- (2) 経費削減

【実績】

- (1) 基本財産運用益
6,038,419 円 (年間総額 12,788,777 円 前年度比 143%)
- (2) 賛助会費
447,000 円 (年間総額 1,102,000 円 前年度比 91%)
- (3) うつくしま地球支援募金
42,000 円 (年間総額 192,000 円 前年度比 21%)
- (4) 消耗品費
532,886 円 (年間総額 863,208 円 前年度比 119%)

2 職員の能力向上と効率的な業務運営の推進

【計画】

- (1) 職員の能力向上
- (2) 効率的な事務運営

【実績】

- (1) 職員の能力向上のため、(財)自治体国際化協会等の研修会やセミナーへ担当職員を参加させた。なお、震災の影響で、当初参加を予定していたふくしま自治研修センターの研修は、実施自体がキャンセルとなった。
- (2) 震災対応のため、適宜業務量に応じた職務分担の見直しを行った。

3 本協会の目的や事業に対する県民の理解の推進

【計画】

- (1) 当協会の広報
- (2) 情報のわかりやすく親しみやすい発信

【実績】

- (1) 事業実施においては、都度報道関係者等への情報提供を行い、県民への広報に努めた。また、主催事業の中で当協会の事業紹介を行うとともに、他団体主催事業にできる限り参加し会場にて当協会パンフレット等の配布・広報を行った。
- (2) 当協会広報紙や事業チラシ等において、専門用語やカタカナ用語をできる限り控えて、県民に分かりやすく親しみやすい情報の発信に努めた。